

10/3
早稲

関電稼働原発来月ゼロへ

配管に傷 大飯3号機 検証長期化

定期検査中の関西電力大飯原発3号機(おおい町)の配管で見つかった傷について検証する原子力規制委員会が二日開かれ、

規制委側は議論を継続する方針を示した。これを受け関電の稼働原発が十一月初めにゼロになる可能性が強まった。その場合、国内の

稼働原発は十一月下旬まで九州電力玄海原発4号機(佐賀県)の一基のみとなる。規制委は大飯3号機と同じ国内の加圧水型軽水炉で過去に同様の事例がないとして、傷の進展速度

国内原発の運転停止と再開の見通し

会社	機名	停止理由	再開見込み
関西電力	大飯3号機	定期検査中、配管に傷	検証続き再開できず
	大飯4号機		3日
	高浜3号機	テロ対策遅れで停止中	22日
	高浜4号機		7日
九州電力	玄海3号機	定期検査中	23日
	玄海4号機		19日
	川内1号機	テロ対策遅れで停止中	26日
	川内2号機	テロ対策遅れで停止中	26日
四国電力	伊方3号機		
四国電力	広島高蔵	決定で停止中	

※四国電力は異議申し立て中

稼働原発は十一月下旬まで九州電力玄海原発4号機(佐賀県)の一基のみとなる。規制委は大飯3号機と同じ国内の加圧水型軽水炉で過去に同様の事例がないとして、傷の進展速度

傷は蒸気発生器周辺で分岐する配管の溶接部で見つかり、配管の厚さ十四ミリに対し深さが内側から最大四・六ミリに達していた。関電は、このまま約十三カ月間の運転を再開しても配管の健全性は保たれるとして、次回の定検で配管を交換する方針を示している。

二日の会合で関電は、配管の模型から得られたデータを基に傷の進展を説明しようとしたが、規制委側は実態を反映しているか検証するのにかかるなどとして、この方法で説明を続けるか関電に再考を促した。関電側は「持ち帰って検討することした。関電は、停止中の高浜3号機について、テロ対策施設を完成させた上で十二月二十二日に運転再開させる計画。九電は十一月下旬以降、玄海3号機、川内1、2号機(鹿児島県)の運転を順次、再開する計画を示している。